NCC
エキュメニカル
協働基金

ローカルの活動から
グルーバルな活動まで、
キリスト教の教団・団体を超えた
エキュメニカルな取組みに、
この基金をお役立てください。

第1期・第2期・第3期　報告

第4期　申請受付のご案内

oikoumene
NCCJ

日本キリスト教協議会　National Christian Council in Japan

エキュメニカル協働基金って？

「NCCエキュメニカル協働基金」は、カナダ合同教会から日本キリスト教協議会への献金をプログラム支援資金として確保して設置したもので、日本のエキュメニカル運動の活性化と各地域におけるエキュメニカル運動の推進を目的とした活動への助成金です。2021年4月より助成がスタートしました。2028年3月まで、6年間にわたって毎年公募し、助成先を決定しています。複数の教団・団体がつながって展開される、エキュメニカルな活動を応援します。

第4期 募集要項

1. 助成の目的

- NCC加盟/准加盟教団・団体間の協働によるプロジェクトを助成することによって日本のエキュメニカル運動を活性化する。
- 各地域におけるエキュメニカル運動推進につなげる。

2. 対象となるプロジェクト

- NCC加盟/准加盟教団・団体によるプロジェクト
- NCC加盟/准加盟教団・団体に属する教会・グループ等の組織によるプロジェクト
- NCCの各部（教育部・文書事業部・宗教研究所）・諸委員会・ACTジャパンフォーラムによるプロジェクト
- NCC常議員会の下に設置されたプロジェクト

3. プロジェクトの活動分野

- 平和構築
- ジェンダー正義
- 人権
- 被造世界の保全
- 先住民の権利
- 地域宣教の活性化

4. 助成対象期間

以下の第1期～第6期を対象とし、継続的な活動への助成を希望する場合は、毎年申請するものとする。

- 第1期　2022年4月～2023年3月
- 第2期　2023年4月～2024年3月
- 第3期　2024年4月～2025年3月
- **第4期　2025年4月～2026年3月**　**※今年度の募集は第4期**
- 第5期　2026年4月～2027年3月
- 第6期　2027年4月～2028年3月

5. 申請条件

- 上記3の6つの活動分野のいずれかに該当する内容であること。
- NCCに加盟する個々の教団・団体、もしくはNCCの諸委員会・各部単独ではなく、3つ以上の複数による協働プロジェクトであること。
- NCC加盟教団・団体の構成員が主体となるプロジェクトであること。
- NCC加盟教団・団体による協働プロジェクトの場合、常議員が代表者であること。
- 申請者は、NCC加盟教団・団体の構成員とするが、プロジェクト参加メンバーに関してはその限りではない。
- 申請するプロジェクトにカナダ合同教会からの資金援助がないこと。
- プロジェクトの中間報告書の提出、およびプロジェクト終了後1カ月以内に所定の報告書（事業・会計報告書）を提出すること。
- プロジェクトの実施グループ名・代表者名等を公表し、活動内容をウェブサイトやSNS等で積極的に広報すること。
- 複数期にまたがるプロジェクトを妨げないが申請は単年度ごとに行う。

6. 助成額

単年度1事業につき上限50万円　（第1期～第6期までの助成総額1800万円。300万円/年×6年間）

7. 申請手続きおよび選考方法

(1)提出書類

- ①申請書　②プロジェクト実施体制図　③予算書を、所定の用紙にて提出。
- 所定用紙はNCCのウェブサイトよりダウンロードできる。

(2)提出方法

- 上記(1)をメールに添付して、NCC総務宛てEメールで提出。

(3)申請書受付期間

- 第4期については、2024年11月21日（木）～12月20日（金）

(4)選考方法

- 常議員会で選考委員7名（役員会2名、常議員会4名、総幹事）を選出して、選考委員会を設置して選考にあたる。
- 第4期の選考結果の発表は2025年2月5日（水）。
- 原則的に書類審査とし、必要があればオンライン面接を実施して申請者への質疑・助言を行う。

8. 問い合わせ先

日本キリスト教協議会（担当：藤守）
TEL：03-6302-1919　　Email：general@ncc-j.org

募集要項の詳細は、10月上旬にNCCのウェブサイトでお知らせします。　https://ncc-j.org/

助成先 活動報告

［第1期］2022年4月～2023年3月　［第2期］2023年4月～2024年3月

第1期：マウンマウンインさんを支えるプロジェクト

申請者　NCC東アジアの和解と平和委員会
協働体制　NCC在日外国人の人権委員会、日本バプテスト連盟 市川八幡キリスト教会、日本バプテスト同盟 関東学院教会、日本バプテスト同盟 日本バプテスト厚木教会、日本バプテスト同盟 高槻バプテスト教会、マイノリティ宣教センター、アトゥトゥミャンマー支援

このプロジェクトは、ミャンマーにおける軍事クーデター以後、ミャンマーにおけるキリスト教リーダーとして、またミャンマーで最初に創設された平和センターの代表者として活動しておられたマウンマウンイン先生が軍事政権による迫害から逃れ、日本でサバイブするための支援を行ってきました。プロジェクトの目的は3つあります。

1つ目は先生の生活維持。先生が経験してこられたことを広く日本のキリスト教団体にいる人々にお伝えし、東アジアにおける平和実現への助言をいただくことです。そのためには先生の生活が維持されなければなりません。2つ目は先生が話す機会をできるだけ多く生み出していくこと、そして3つ目はそのための情報共有を行うことです。これらを目的に、このプロジェクトがスタートしました。マウンマウンイン先生の渡日のために力を合わせて取り組んだアトゥトゥミャンマー支援の世話人と、NCC東アジアの和解と平和委員会の代表者が組織を形成。ここの働きをアトゥトゥミャンマーの世話人会でも共有し、祈り会では霊的なリードをそして先生の具体的な生活のための献金をアトゥトゥが、そして活動をこの協働基金が支えてきました。協働基金によって、先生の活動は大変充実したものとなりました。特に、軍事政権による迫害から逃れた経験を証するようにとのオファーは多くあり、WCC総会にも同じくミャンマーのキリスト者らとの再会のために出かけられることとなりました。ビザの申請を始め、先生の講演会のアレンジ、また通信費など、他の団体では賄えないものをこの協働基金から充当することができました。

このプロジェクトを通じて、先生お一人の在留を支えていこうという行動から、日本の外国人に対する政策の差別性にも気づかされました。さらにミャンマー大使館が日本にいるミャンマー人にパスポートを発給しなくなっているその現実にも、このプロジェクトの作業をする中で直面した問題の一つでした。

先生は現在もミャンマーへの帰国困難者です。現在は日本にあるミャンマーコミュニティを訪問し、若い牧師たちを励まし、礼拝メッセージをする活動にも加えられています。また、プロジェクトを通じて先生自身が日本の貧困の状況を知ることとなり、年末に行われた炊き出しで、ミャンマーふりかけを自ら調理しておにぎり300個分をつくってくださいました。引き続き、先生の活動を覚えてお祈りください。

第1期：青年委員会との協働による「NCCジェンダー正義に関する基本方針」策定プロジェクト

申請者　NCCジェンダー正義に関するポリシー策定のためのワーキンググループ
協働体制　日本福音ルーテル教会、日本基督教団、日本聖公会、在日大韓基督教会、NCC青年委員会

この活動は、「NCCジェンダー正義に関する基本方針」を策定するため、第2回常議員会（2021年7月）において役員会から提案され、全会一致で承認され、結成されたワーキンググループによる取り組みです。その策定活動のために本基金は用いられました。NCCの複数の加盟教派教団の信徒によって構成されたエキュメニカルなワーキンググループは「NCCジェンダー正義に関する基本方針」をドラフトし、NCC青年委員会とその関係者によるコメンテーター、アドバイザー、常議員などからのフィードバックをもとに改訂を重ねました。その後、第11回常議員会（2023年10月）に全会一致で承認され、第42回総会（2024年3月）で正式に採択されました。

第1期・第2期：わかちあい釧路

申請者　日本バプテスト連盟釧路キリスト教会
協働体制　釧路YWCA、釧路友の会

この活動は、2020年の新型コロナの発生に伴い、生活困窮にある方々が増えたこと、そして、そのような方々を覚えて、「なにか、なんとか、支援ができないか」、そのような思いの中から、志を同じくする人々が集まり、活動が立ち上がりました。

「わかちあい釧路」は、月に1度、第3土曜日に、食料品、生活用品の無償配布をしています。市民の方々が、この活動に関心をもってくださり、食料や生活用品の差入を持って来られたり、近隣の商店や企業、またフードバンクや公共団体等からも物品を提供くださいます。

こちらの写真は、毎月第3土曜日に行っている、食料等の配布状況の写真です。毎回、50名から60名前後の方々が、食料品を受け取りに来られます。また、後日、取りに来ることすらできない方々や、滞日・在日の外国人労働者や貧困学生等へ、約20袋ほどが配られます。

「わかちあい釧路」の働きは大きなものではありませんが、「あなたは決して一人ではありません」という目に見えるメッセージとして、今後も、細く長く続けていきたいと願っています。

第1期・第2期：第28回・第29回世界エイズデー礼拝

申請者　日本聖公会東京教区人権委員会
協働体制　カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク、ルーテルHIV/AIDSプロジェクト、日本キリスト教団有志

「世界エイズデー礼拝」は、日本聖公会東京教区人権委員会・カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク・ルーテルHIV/AIDSプロジェクトが共催し、日本基督教団社会委員会が協賛となり、世界エイズデーである12月1日の前後の主日の夕刻に各教派によるエキュメニカルな体制で開催しています。

2022年の第28回の礼拝は、YouTubeでの同時配信も含めて聖公会の神田キリスト教会で開催しました。礼拝の中では「日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス」のけいたさんにお話しいただきました。HIV/AIDSの治療薬は進歩し、副作用も少なくなってきた一方で、エイズに対する差別や偏見は、ご自身の体験からも、いまだに医療機関でさえ多いと感じておられるということでした。HIVだけでなく、差別の対象となるようなほかの感染症の方々に対しても、少しでも優しい社会が実現できるよう頑張っていきたいと話されました。

2023年の第29回の礼拝も、YouTubeでの同時配信も含めて日本基督教団代々木上原教会で開催。礼拝の中ではNPO法人ぷれいす東京代表の生島嗣さんにお話しいただきました。現在HIV/AIDSに使われている治療薬の現状について、服用しやすく、副作用も以前より出にくい処方になったため、治療しながら日常生活を送ることがずいぶん楽になってきたことを、まず初めにお話しされました。

以下は、礼拝式文の[派遣と祝福]の祈りです。

「私たちの言葉と行いによって、新たなHIV感染者とエイズに関連した死者が無くなりますように。さらにHIVそしてエイズと共に生きる人びとへの偏見と差別が無くなりますように。今も、これからも共に力を合わせていくことができますように。
アーメン」

第2期

みんなで助け合いプロジェクト

申請者　「みんなで助け合いプロジェクト」チーム
協働体制　日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会、北海道マスコミ伝道センター「ホレンコ」、日本聖公会札幌キリスト教会、日本基督教団真駒内教会

コロナ禍になり飲食店の閉店が続く中で、若者たちのアルバイトがなくなってしまったというニュースが聞こえてきました。札幌YWCAと日本基督教団北海教区と札幌バプテスト教会の三者で話し合い若者たちに食糧や日用品を無料でお渡しするプロジェクトを立ち上げました。

呼びかけに応えて、全国・世界からたくさんの支援物資と募金が届き、当日は300名の来場を想定し、着々と準備を進めました。ところが、フタを開けてみると…長蛇の列ができると思った会場前には、時間になっても人っこ一人いませんでした。慌ててチラシを刷り、目立つ格好で、大学の門の前に若者を呼び込みにでかけました。また、会場前でも通りがかる若者たちに来場の呼びかけを行いました。すると、少しずつ若者たちが来始めました。そして、来場した若者たちが、SNS等でどんどん情報をシェアしてくれ、にわかに会場も活気づいていきました。

三者共催で始まった「さっぽろ若者応援プロジェクト」は、その後、ラジオ放送局ホレンコや救世軍札幌小隊も共催団体に加わり、2021年に、①06月26日／②07月27日／③09月28日／④11月11日と、4回に亘りプロジェクトを開催し、のべ1000名を超える若者が来場し、プロジェクトを終了しました。

北海道大学南門の目の前にある日本聖公会札幌キリスト教会を会場に、毎年2度プロジェクトを行っています。

前プロジェクト時代からお手伝いくださっていたホレンコや真駒内教会・厚別教会のみなさんも、すぐに手伝いにかけつけてくれました。仕入れ先のスーパーやお米屋さんともすっかり親しくなり、プロジェクトに協力してもらっています。活動を進めれば進めるほどに、来場者数は増えていっています。仕事帰りにスーツ姿で来る人も、小さい子どもを何人も連れている親も、留守番している弟の分ももらう中学生も、ハラルフードが必要な外国籍の方々も、弁当分かち合いの活動の常連さんも、みんないろいろな状況を抱えながらやってきます。このプロジェクトのために、全国から、世界から寄せられるみなさんのやさしさを、これからも、少しでも多くの人たちと分かち合うことができますように。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」。

第2期

2023年「ユース平和フォーラム」教会協働プロジェクト

申請者　NCC東アジアの和解と平和委員会・在日外国人の人権委員会・教育部
協働体制　日本福音ルーテル教会社会委員会、在日大韓基督教会、日本聖公会大阪教区、日本カトリック正義と平和協議会、日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会、平和を実現するキリスト者ネット、在日大韓基督教会在日韓国人問題研究所

2023年8月末、第2回「日韓ユース平和フォーラム」を開催しました。昨夏ソウルとパジュで開催された第1回に続き、日韓の若者40名が東京に集結しました。日本側は大学生を中心に、教会関係、キリスト教団体、僧侶や仏教徒など各地から多様なメンバーが集まりました。ユース実行委員と日韓ユース部会が学習会やオンライン会議を通して準備し、当日を迎えました。宿泊会場はオリンピック青少年センター。ユース達は再会を喜び合い、「日韓プラットフォーム会議」両国運営委員による挨拶、グラウンドルールの確認、自己紹介、アイスブレーク、交流会でスタートしました。2日目は関東大震災の歴史を学ぶスタディツアー。3日目は5グループに分かれてフィールドワークを実施し、今も残る日本の植民地支配の現場を歩きました。4日目朝は「声明文」起草のための話し合いです。午後は文科省前での「金曜行動」に参加し、韓国側ユースが代表してアピールをしました。最終日の閉会式は、聖イグナチオ教会岐部ホールでした。日韓ユース代表がメッセージを述べ、行動計画採択&宣言文朗読と閉会挨拶で解散しました。留学や就職のために参加できなかったユースもいましたが、昨年韓国側スタッフだった方が日本に留学し、今年は日本側スタッフとして通訳やハンドブックの翻訳を担ってくださいました。

声明文は、9月3日（日）夜の在日大韓基督教会東京教会での「虐殺犠牲者追悼礼拝」でも朗読されました。「ユース平和フォーラム」は今年の夏、第3回を開催します。歴史認識は決して「国対国」ではなく、個人の認識の違いによります。参加メンバーは多少入れ替わりますが、平和をつくり出す働き人として今後もゆるやかに繋がってほしいと願っています。

第2期
第3期

だれでも食堂夕焼けこやけ

申請者　日本バプテスト連盟福井キリスト教会
協働体制　日本同盟基督教団福井中央キリスト教会、NPO法人福井アーク、地域の隣組メンバー

2021年6月、コロナ禍の中でこの活動を始めました。毎月第4金曜日の夕方に、また加えて2023年6月からは、毎月第1木曜日も気まぐれ惣菜の日（おかずのみ2品配布）としました。

食堂の目的は、赤ちゃんから高齢者まで国籍が異なる方も、障がいがある方もない方も、いろいろな方が集まり、大家族で食卓を囲むことを大切にし、安心して他者に向かって助けて！と言える関係づくりです。多様性を喜び、参加者は、たくさんの違いに出会うことで気持ちが大らかになり、お互いを認め合うこと、ひとりひとりが大切な存在であることに気づきます。そして、互いに励まし合い「自分はひとりではない」と思える、そのような居場所になることが目的です。

現在、参加されている皆さんは、ひとり親家庭、依存症回復に取り組んでおられる方、ひとり暮らしの高齢者、共働きのご家庭、外国籍の方、精神的な病や発達障がいを抱えた子どもたちなどです。赤ちゃんから高齢者まで、だれもが来られるみんなの居場所です。120名ぐらいの皆さんが利用されています。

福井県立大学社会福祉学科の学生さんも、食堂に関心をもってくださり、インタビュー、お手伝いに来られましたが、子どもたちにとっては憧れのお兄さん、お姉さんで、嬉しい出会いとなりました。

また、特に、エキュメニカル協働基金をいただくことで、他団体と協働した作業ができるようになり、ネットワークの広がりが生まれたことは感謝でした。福井中央キリスト教会、ひきこもり支援事業所こむふくさん、日本基督教団如鷲教会、聖公会福井聖三一教会、地域の皆様方の協働により、この働きはなされています。

第2期
第3期

名古屋市中区における炊き出し活動

申請者　ささしま共生会
協働体制　カトリック半田教会・福信館炊出しの会、名古屋YWCA、日本基督教団 愛知西地区、日本福音ルーテル教会、日本聖公会・笹島キリスト教連絡会、在日大韓基督教会名古屋教会

名古屋市内で炊き出しが始まったのは50年近く前の1967年年末の名古屋越冬活動に続く、平日における炊き出しも行われて行くという流れから現在に至っているものです。その年のホームレスの死者数が15名という報道を受け、名古屋でも支える活動が必要とキリスト教の教会や、支援団体による小さな食料配布がスタートでした。この数十年の間に、それぞれが食料配布を行っていた教会や団体が集まり名古屋炊き出しの会が結成され、その後『ささしま共生会』という団体になっていきました。その始まりは国鉄名古屋駅改札のあたりでおにぎりとみそ汁をお配りするものだったそうですが、ピーク時は600人の方にお渡ししていたと、当時から活動をされるボランティアの方のお話です。名古屋駅が刷新される工事に伴い、活動場所を変えていかなくてはならないこと数回で現在の名古屋市中区、名古屋高速高架下は5か所目の配食場所となっています。高架下ということで、雨天の日も雨もしのげ、炊き出しを行うことができます。現在の利用者数は各回平均で125名ほどですが、同じ会場でもリーマンショックの頃は400人程のご利用者数でした。

15年間のNPO団体を経て現在は任意団体として活動を続けるささしま共生会は、全国からの個人の方や、基督教会などの団体からのご寄付により支えられ、さらに調理や配食は登録150名を超えるボランティアの方により長年の活動が行われています。炊き出しを開始していた個々の団体がキリスト教の教会が主だったことから、各教会が月曜日木曜日のひと月8回の炊き出しを交代で担っています。

第３期はこれらの活動を応援しています

2024年4月～2025年3月

1 シニアのためのご近所食堂

■申請者　一般社団法人札幌YWCA

■目的　食事会を通して、高齢者の安心で安全な暮らしを地域の人々が日常的に見守ることができるような場と、困ったときには、気軽に相談できる場（教会、YWCA等）を複数つくり出し、分断されつつある人と人との信頼の関係の回復をめざします。

■協働体制　一般社団法人札幌YWCA、日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会、日本キリスト教団琴似中央通教会、日本キリスト教団月寒教会、札幌市中央区山鼻町内会6区こぶし会

2 お弁当分かち合い

■申請者　お弁当分かち合いチーム

■目的　毎週金曜日に手作りのお弁当を無料でお渡しします。合言葉は「神さまからいただいている恵みを分かち合う」。恵みを分かち合うということで、取りに来られる方々にはどなたにでもお渡しします。多くの食料を預かった者は、分かち合う喜びと責任を託された者であると捉え、感謝と責任を思い、皆で分かち合っていく今日を明日をつくり上げていくことに取り組みます。

■協働体制　札幌バプテスト教会 、日本キリスト教会札幌豊平教会、日本聖公会札幌キリスト教会、DAY BY DAY

3 難民命の緊急基金支援プロジェクト

■申請者　NCC 在日外国人の人権委員会、NCC 東アジアの和解と平和委員会、在日大韓基督教会社会委員会

■目的　①窮地に陥る難民申請者や未登録外国人への支援金給付という具体的支援により、金額が少なくとも現状をわずかでも良い方向に向かわせます。②それは「あなたのことを決して忘れていない」という市民社会からのメッセージとします。③「支援者」対「支援を受ける人」という関係を超え、マイノリティに苦難を強いる国家=マジョリティ社会の問題として考え、変化をもたらすための契機とします。

■協働体制　NCC 在日外国人の人権委員会、NCC 東アジア和解と平和委員会、在日大韓基督教会社会委員会、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会、在日大韓基督教会在日韓国人問題研究所、マイノリティ宣教センター、アトゥトゥミャンマー、日本福音ルーテルむさしの教会、日本基督教団竜ヶ崎教会、日本バプテスト同盟駒込平和教会、日本バプテスト連盟目白ヶ丘教会、NCC 教育部、日本バプテスト連盟豊中教会、日本福音ルーテル帯広教会、日本バプテスト同盟野並キリスト教会、日本基督教団四街道教会、日本カトリック難民移住移動者委員会、移住者と連帯する全国ネットワーク

4 名古屋市中区における炊き出し活動　※第２期に引き続き助成

■申請者　日本福音ルーテル教会東海教区・ささしま共生会

■協働体制　日本福音ルーテル教会、福信館炊出しの会 、名古屋YWCA、日本基督教団愛知西地区、日本聖公会、笹島キリスト教連絡会、在日大韓基督教会名古屋教会、ささしま共生会

5 だれでも食堂夕焼けこやけ　※第２期に引き続き助成

■申請者　日本バプテスト連盟福井キリスト教会

■協働体制　日本バプテスト連盟福井キリスト教会、日本同盟基督教団福井中央キリスト教会、日本聖公会福井聖三一教会、日本基督教団如鷲教会、坂井市ひきこもりサポート事業みんなの居場所こむふく、その他地域の隣組、福井市役所職員、国際交流会館職員、グラフィックデザイナー等